

## 令和7年度 第2回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。  
※制度などの説明は、会議開催時点のものであります。

日 時:令和7年5月19日(月) 19:00～

場 所:湊コミュニティセンター

参加者:10名



### ◆ 市と地域コミュニティ組織の情報共有、問題解決などの流れをよくしてほしいです

(参加者)

市全体としての地域コミュニティ組織の現状を知りたいと思います。さまざまな意見についてどう回答をされていて、どういう問題があってどう解決していますか。今後のために、情報共有などの流れを良くしてほしいなと思っています。

今年の3月議会の中で、地域コミュニティ組織に関する会議を立ち上げるという答弁が市長からありました。早く立ち上げてもらって、中身の話ができるようにしてもらったほうがいいと思っています。

(市長)

地域コミュニティ組織の皆さまから直接お声を聞くという意味ではまっさらで、各地区をこうやって回りながら、苦労話とか、こうしていきたいということとかのお話を聞きたいなと思っています。各地区を回りながらも、組織づくりをしていきますので、随時お伝えしていければと思います。

ただ情報が早く欲しいというのはよくわかります。今のところ8月頃の予定で、地域コミュニティ活性化推進委員会と地域コミュニティ組織連絡会を作り、情報共有などができるようにしていくこ

ととしています。

## ◆ オール湊でまちを守るため、湊独自の地区防災計画の作成に取り組んでいきます

(参加者)

防災・防犯部会からお話しします。昨年の1月の能登半島地震のときには、住民がパニック状態になってしまいました。湊小学校の体育館が避難場所であったところ、住民がガラスを割って校舎に入り、3階まで上がっていて、地震、津波について、いかに伝わってないかをつくづく思いました。

市のハザードマップでは、最大クラスの地震が来た場合の湊の最大津波高は3.6メートルとなっていますが、小舞子海岸の駐車場は5メートルです。だからまず大丈夫だということなのですが、我々もまだまだ、アピールが足りなかったなと思いました。

後日、区長さん、消防団、湊自主防災会で反省会を開きまして、改めて避難所開設の訓練をしました。また、「みなと防災フェスタ」には、小さいお子さんや若い家族連れが今までにないほど来てくれて、広く住民に知らせるために、やってみて非常によかったなと思っています。今年もやるつもりでいます。

(参加者)

地震が起こったときに、二千何百人に対して20人そこそこの防災士で何もできるはずがありませんので、平時に理解してもらう活動が必要です。湊の場合は、逃げなくていいよ、津波の場合は、コミュニティセンターか小学校、そういう高台に行けばいいよってということがわかっているだけで、この前のパニックはなかったはずです。

今までは湊自主防災会として単独でやっていたので限界がありました。今年から、地域コミュニティ組織として、他の部会とも連携をとりながら、3年計画で湊の地区防災計画を作って市長に提案させてもらいます。

ご指導いただいている大学の先生との打ち合わせでは、計画を立てるために、多くの地域の人とコミュニケーションをとって、できることとできないことを理解するというプロセスが一番大事、紙切れの地区防災計画書なんて書いても無駄ですよって言われて、どこまでできるかわかりませんが、そのとおりだなあとと思っています。湊もここと線路の向こう側とは災害のリスクが違います。災害の種類によってこっちに逃げたほうがいいのか、そういうのができればいいかなど。

関連して、防災計画を作ろうとしたら設備を変えるとか、区民会館を避難所にできるようにするとか、避難の道路に照明をつけるとか、そういうまちづくりと地域防災計画を両輪でやろうということで、そちらはセンター長を中心に頑張ると今お願いしていますし、担当部署にもご相談に行くと思いますので、よろしく願います。

湊地区は本当に仲がいいので、コミュニケーションをうまく生かして、オール湊でまちを守るって

いうのを、ここならできるんじゃないかなという思いもあって、いろいろ始めているところです。

(市長)

オール湊でまちを守るっていいですね。

白山市は755平方キロメートルと広く、地域によって全然災害も違います。例えば今日山ろくに行ったら、実は火山の噴火に対応する訓練をしているんです。こちらでは必要ないかもしれませんが、各地域の課題は違うということです。昨年1月1日のときも、白山市は震度5弱と出ていますが、実は旧松任側は震度4でした。

各地域コミュニティ組織に自主防災組織を作っていただいて、その地区ならではの課題を解決していくというのは、大きなねらいの1つでもありまして、まさにありがたいなあと思っています。

(参加者)

市長さんのおっしゃったように、松任(倉光)が震度4で美川(美川浜町)が5弱、鶴来(鶴来本町)が5弱、湊は地震計がないのでわかりません。危機管理課長さんに要望しましたが、湊にも地震計が欲しいなと思っています。先日は石川県から27年ぶりに地震の被害想定の変更が出て、金沢で震度7、白山市震度6強になっていました。

(参加者)

県道の小舞子橋は昭和38年3月建設です。60年経っていて老朽化が心配です。

(市長)

小舞子橋はIRいしかわ線を跨ぐ石川県が管理する跨線橋で、県に確認したところ、耐震性能がある橋梁で、5年ごとの法定点検を実施し、今年度が点検の年になっていて、適切な維持に努めているとのことでした。

市としても湊地区へ繋がる重要な路線と認識しており、県に対して適切な維持管理をお願いしていきます。

## ◆ まちづくりワークショップで若い人たちも含め湊の未来について話し、盛況だった桜まつりが実現しました

(参加者)

市長さんにもお越しいただいた桜まつりですが、我々の反省会では非常によかったと話しました。たき火でマシュマロを焼いて、小学生たちがすごく喜んでいましたし、桜のトンネルの雰囲気がとてもよかったという話がありました。

そこまでの道筋を廊下に掲示しています。昨年9月に、若い人たちを含めいろんな人に集まっていただいて、まちづくりワークショップを行い、その時には、湊のこれからをどうしたらいいか、どうなったらいいんだろうっていう話をしました。

例えば、買い物するお店がないとか、若者が参加する行事がないとか、少子高齢化とか、だから何とかしたいね、活気づけるために何かないかなっていうことで、桜まつりをやろうっていう若い人たちからの意見をもとにして、桜まつり第1回を行っています。もちろん、我々だけじゃなくてセンタ一長や職員さんとかが一生懸命努力していただいたおかげで開催できました。

やっぱり若い人を巻き込むということがすごく大事なので、もっと下の世代にそういうものをしていくような方向づけをしたいなと思っています。

## ◆ 湊の魅力である小舞子海岸での活動やジオパーク活動を今後も行っていきます

(参加者)

手元に、以前市から補助金をいただいて作成した小舞子探訪という資料をお渡ししました。当初は20名弱ぐらいでスタートして、10年以上ずっと継続しながら、小舞子海岸の掃除、それから松林の松の植樹と下草刈りをこつこつとやってきたおかげで、松林も大分再生されました。いろんなところから少しずつ補助をいただきながらも、やっぱり継続的にやっていくことが本当に大事ななとつくづく思います。

「環境・ジオ部会」という部会名は、住んでよかったとか、ふるさとを愛するっていう気持ちを作るためには、ジオパーク活動も大事にしていきたいなという思いからのものです。

年に何回かジオパークについての学習会をしたり、桜を見るのに部会で連れて行ったり、またこの地区のジオ的なことをお話したり、そういう機会も持ちながら、少しずつ理解してもらえたらいいかなと思ってやっています。

地域コミュニティ組織になったことによって、そういうことがやりやすくなり、ある程度、融通が利くっていうのは大変助かるかなというふうに思っております。

(市長)

ジオパークは、地域愛を育てるというものだと思います。最近ではInstagramを見て皆さん来てもらえているようです。白山市にはIRの駅が5つありますが、小舞子駅については何を差し置いても夕日が綺麗です。本当に綺麗に見えるんですね。そういう発信っていうのは、若い人達の発想をどんどん取り入れてったらいいなあとと思います。外国人の方も結構いますよね。どうやってきていらっしゃるのでしょうか？

(参加者)

小舞子駅で降りて歩いて見に行くんですよ。Instagramなどで、結構広まっているようです。夕日が綺麗で、海水浴場もあって、しかも車に乗らなくていい。その辺りをもう少し、整備をすればいいかなと思います。行く道はちゃんと我々がいつも草刈りをしてちゃんと見えていますし、近道の看板もつけてわかりやすくしています。

(市長)

電車を降りて海岸に夕日を見にすぐ行ける。こういうところは実は他にはないんです。そういうのをプロモーションしていきたいですね。

昨日自転車で50キロコース100キロコースを走るGEORIDE HAKUSAN(ジオライドハクサン)というイベントをやりまして、私も自転車で徳光まで行きました。自転車もこの広い白山市にとって、今から非常に重要な乗り物かもしれないと思っています。

(参加者)

西川・熊田川の水門ができるときに、サイクリングコースがどうなるのかを前もって考えておかなければいけないと思います。湊の誇れるところは日本海と手取川で、それをアピールしないと湊はもう立ちいかないとします。

### ◆ 今後3地区で美川地域の将来像を考えていくこととしており、市全体の方針も見せていただければ

(参加者)

少し前から美川商工会がにぎわい創出の活性化策で、美川・蝶屋・湊の美川地域を対象とした地域づくり計画を策定していて、その説明会が来週26日に湊地区の住民を交えて実施されます。ハードルは高いですが、地域で夢を語って、それに向かって何ができるか、どんな形の像を自

分たちが描けるのか、そこが一番大事なので取り上げて検討します。すごくいい構想で、盛りだくさんになっています。

(市長)

地区の将来像、夢を作る場ですね。それは大切なことだと思います。

(参加者)

市全体としても、白山から日本海までのことを考えたジオパークのような取り組みを決めていかなければ、進んでいかないと思います。それぞれが勝手に要望するというのではバラバラになってしまうので、やはり市の方針として引っ張っていくというのが大事だと思うので、それを住民に納得してもらって、住民が一生懸命やると。そうすると、いい関係になって進んでいくのではないかと思います。

#### ◆ 湊グラウンドの整備、呉竹文庫の修繕について

(参加者)

湊グラウンドは使い勝手が良く、町民の優和と親睦を目的に、毎年地区の運動会を行っています。県の西川河川改修工事によって20メートルほど狭くなるということで、運動会の種目など開催方法を現在検討しています。また、トイレ付きの倉庫も撤去されるということですが、ぜひ代替の倉庫とトイレをグラウンドのどこか適当な場所に設置していただきたいです。

(市長)

桜まつりのときにグラウンドを拝見し、この件について聞きました。河川改修自体は県の工事なので、県と相談しながらやっていきます。令和8年度以降に予定しているトイレ、倉庫等の移設場所等については、今後、市で案を作成後、湊コミュニティセンターと利用状況等を協議して決定する予定です。

(参加者)

現在、地震の影響で臨時休館中の呉竹文庫の修繕を早めに対応いただけないでしょうか。

(市長)

早い時期から文化庁へ働きかけていますが、文化財に指定されると自分たちで自由に修繕できないうえ、文化庁の担当者は一人で何ヶ所も担当しているのです。どうしても時間がかかるようです。私個人としては早く直せばいいと思いますが、なかなか進んでおらず、いつまでもそんな状態ではいけないと思っています。

## ◆ 少子高齢化時代、若者がここに住んでよかったと思えるまちづくりを

(参加者)

健康福祉部会では、老人会、主に高齢者に対していろいろなことをやっています。先日運動会を開催しましたが、100名近くの参加があり、皆大変楽しそうにやっていました。これからまたがんばってほしいと思っています。

湊小学校の子ども数も減っていますが、自分たちの地区が住みやすくなるよう努めることも少子高齢化の対策として大事なことです。

少子高齢化が日本全国で大きな問題になっています。特に子どもの減少は40年間続いていると言われており、市や、国、県で、少子高齢化をどう解決していくか、子どもが減り続けていくのをどこかで止めなければいけないと思います。これが進むと、住みにくいまちになると思います。そのために、若者が興味を持って、ここに住んでよかったと思えるようなまちづくりが大事だと思っています。

(市長)

先日、小さなお子さんを持つ若いお母さん方が、白山市で子どもを産み育てたいとおっしゃっていました。白山市では子どもが生まれる前から生まれた後、保育所、小学校、中学校と切れ目のない支援を進めています。

例えば、第2子以降の保育料と18歳までの医療費はすべて無料にしています。また、県内の小学校は1クラス35人以下となっていますが、白山市の小学1年生は1クラス30人以下の少人数学級を採用しており、市独自で予算を計上して、教員を増員配置しています。

さらに、学校図書館法では教員が図書館の整備などを行うことになっていますが、白山市では旧松任市当時から専任の図書館司書をほとんど正規職員で学校に配置しています。専任の図書館司書を置くことで、授業の準備を司書の方が手伝うなど、教員と司書が協力・連携して、きめ細やかな教育ができるよう配慮しています。

高齢者に関しては、白山市は健康寿命や平均寿命が石川県や国の平均より長くなっています。

「あたまとからだの健康増進事業」という市の取り組みを聞いたことがありますか。認知症の予

備軍である「MCI(軽度認知障害)」は、認知症になる一歩手前の状態を指しています。そのまま放置していたら認知症になるかもしれない方たちが、体を動かしたり、コミュニケーションをとったりする活動で、正常な状態に戻るというのがこの事業です。この取り組みは、松任石川中央病院の医師やスマートウエルネスシティを専門とする筑波大学の教授からアドバイスをもらい、太鼓判を押していただいています。

#### ◆ 一人暮らしの高齢者などに何かあった時の判断に迷うことがあります

(参加者)

後期高齢者の75歳以上の世帯が多いので、何かあったときの対策をどうしたらいいのか、警察に連絡を入れるかどうかの判断が難しいです。

(市長)

まずは民生委員へ連絡するのがいいと思いますが、地域コミュニティ組織が大切なのは、ひとり暮らしなど高齢者世帯の方を地区で見守る体制が必要だからです。湊地区については民生委員の方などいろいろな方に協力いただいていると思うので、その辺については今後も相談していただければと思います。緊急の場合は、警察へ連絡いただくのが一番です。

民生委員はひとり暮らし高齢者世帯の連絡先を把握しているので、躊躇せず連絡してください。災害時の対応も同様に考えなければなりません。

(参加者)

訪問介護・看護の必要性をつくづく感じます。介護職の成り手が非常に少ないので、市からの補助があればもう少し人が増え、手厚く介護できる状態になるのではないかと思います。民生委員だけですべて該当の家を回ることはできないので、そういう人たちが増えるといいと思います。例えば、子どもに対する施策はいろいろありますが、ひとり暮らしの高齢者に対する施策も大事だと思います。

#### ◆ 市内小中学校の給食は魅力的／英語教育のさらなる推進を希望します

(参加者)

白山市では、給食が自校方式であることが大変いいと思います。湊小学校の給食を食べました

が、非常に野菜が多いです。小・中学校の成長期に、きちんとした食事から各栄養素を摂取することで体が形成され、その積み重ねで年を重ねても元気でいられると思います。長い目で見ると、白山市にとっていいことです。

(市長)

給食費を抑えようと思うと給食センター方式です。白山市周辺の大きな市はほとんど給食センターで作っています。白山市では旧松任市の4つの中学は給食施設がないので、給食センターで作って持って来てもらっていますが、それ以外はすべて各学校で作っています。美川地域の方は自校方式が普通だと思っていらっしゃると思います。

また、白山市の給食はできるだけ地元のものを使い、地元で消費する地産地消を基本としています。将来的な「オーガニックビレッジ宣言」の実現に向け、今年度新たに学校給食のオーガニック推進事業へ予算計上しました。オーガニックビレッジとは、農薬を使わない栽培法や、減農薬で農薬散布の回数を減らすなどの有機農業のことです。去年は、学校給食で特別栽培米という減農薬米を使った給食を年間5回提供しました。今年は無農薬米である有機栽培米の提供に向け、現在調整中です。子どもの頃から地ものものを食べて育つというのは、やはり健康にいいと思います。

白山市は、子どもの健康のためにかなり手厚く、中学校の給食は昨年から無償で提供しています。財政状況により、小学校の給食無償化はまだ難しいですが、物価高騰などで食材費が上昇している中、数年前から給食費の値上げをせず、3000～4000万円ほど市で負担しています。子どもたちの健康のために様々な取り組みをしており、給食の食材やメニューについても工夫を凝らしています。子どもたちにとって、給食がおいしく楽しい時間であればと考えています。

(参加者)

少子高齢化は人口が減るので働き手が少なくなります。日本人だけでなく外国人にも湊地区に住んでいただこうと思うと、コミュニケーションの課題が出てくるのではないかと思います。

子どもの頃から機会を設けて、英語で外国人とコミュニケーションをとり、生活や仕事ができるようになればと思います。湊地区でもプロジェクトチームが発足しますが、そういうことも含めて、学校でも機会を作らないといけないのではないかと思います。

(市長)

現在、小学3年生から英語活動を、5年生からは教科書を使用して英語の授業をしています。また、校舎内の階段など、目に触れやすい場所にアルファベットを書いたり、ALTを加えて英語の授業をしたりと、生徒が英語を身近に感じられるよう工夫しているところも多いです。

学校教育で英語の授業が増えているので、小学校の先生は大変だと思います。私個人は英語を話すことはできませんが、ジオパークの関係でモロッコやベトナムへ行った際、英語でスピーチをしなければいけませんでした。そういう場では英語を使う必要に迫られますので、話さなければいけないような機会を設けるといいと思います。

外国人労働者が非常に多い地区もあり、その子どもが学校に通っているのも、日本語を教えながら、生活しやすいようにするなど、それも市の大きな課題の一つとなっています。高校生たちには、ボストン町やペンリス市など姉妹都市の方たちと英語で交流する機会も多く作っています。

#### ◆ 空き地・空き家問題に苦慮しているのも積極的な対応をしてほしいと思います

(参加者)

地区に空き地・空き家がたくさんあり、崩れそうな家があちこちにあります。その状態が長く続いて危険なので区長会等でも苦慮しています。個人宅なので難しいことは承知していますが、子どもたちの通学路にもありますのでなんとか対応いただけないでしょうか。

(市長)

市が勝手に解体することはできないため、市の担当者が空き家を放置しないよう持ち主と粘り強く交渉して、解体した空き家がいくつもあります。白山市空き家バンク制度では、関係各所へ働きかけ、様々な対策を講じています。

近年、鶴来や白山ろく方面では、空き家のリノベーションにより生まれ変わった宿泊施設や店舗が増えるなど、空き家の用途は多岐にわたります。白山ろく地域では新幹線駅と空港のある小松市からの誘客を見越して、趣のある建物をリノベーションした店舗や宿泊施設が賑わっているようです。鶴来商工会や白山商工会では、空き家・空き店舗の活用や起業に係る支援補助を行っていますが、市では空き家バンクや空き家改修補助金などで補助しています。

#### ◆ 今後コミュニティセンターに支所の機能を持たせることを考えていますか

(参加者)

コミュニティセンターが将来的にどういう方向で機能するのかお聞きしたいです。例えば、戸籍謄抄本などを発行できる機械が美川支所にありますが、そういうものをコミュニティセンターに置くのでしょうか。私は、いずれそうしなければ、高齢化が進み、支所まで取りに行くのは大変だろうと思っています。

(市長)

現時点でコミュニティセンターにそういった機能を置くことは考えていませんが、今後いろいろと

考えていく必要も出てくると思います。

いろいろなご意見をいただきありがとうございました。地域コミュニティ組織としていろいろ取り組んでいく中で、問題に直面した場合はそれについて考えなくてはなりません。展望について話が出ていましたが、地区ごとにいろいろな夢を持っていただいて、できることもできないこともあると思いますが、自分たちの地区を自分たちで作り上げていく機運が高まってほしいと思います。できれば、若い方々のご意見も皆さん聞いていらっしゃると思うので、今後ともご意見をお聞きしながら、市の担当職員とも連絡を取ってやっていただければと思います。